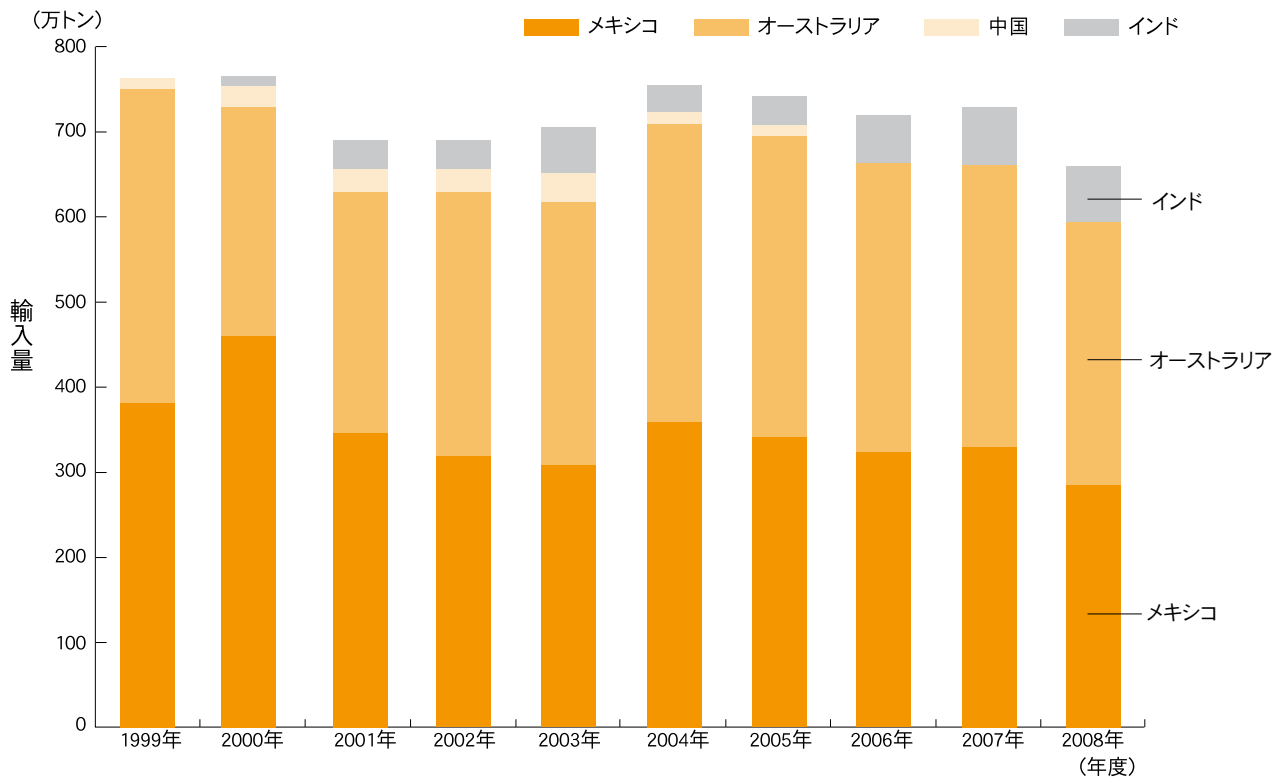


# ソーダ工業用原料塩の輸入推移



(単位：千トン、構成比%)

年 度	需要量	輸入量	国 別 輸 入 量							
			メキシコ		オーストラリア		イ ン ド		中 国	
			数量	比率	数量	比率	数量	比率	数量	比率
1999年	7,649	7,614	3,803	49.9	3,698	48.6	—	—	113	1.5
2000年	7,514	7,618	4,361	57.3	2,966	38.9	47	0.6	244	3.2
2001年	6,830	6,922	3,422	49.4	2,955	42.7	290	4.2	255	3.7
2002年	7,044	6,922	3,148	45.5	3,214	46.4	345	5.0	215	3.1
2003年	7,118	7,012	3,085	44.0	3,259	46.5	420	6.0	248	3.5
2004年	7,320	7,517	3,542	47.1	3,470	46.2	358	4.7	147	2.0
2005年	7,236	7,427	3,397	45.7	3,592	48.4	361	4.9	77	1.0
2006年	7,203	7,217	3,245	45.0	3,530	48.9	439	6.1	3	0.0
2007年	7,219	7,382	3,367	45.6	3,319	45.0	696	9.4	—	—
2008年	6,589	6,613	2,779	42.0	3,163	47.8	671	10.2	—	—

ソーダ工業の原料となる塩（原料塩）は、現在、メキシコ、オーストラリア、インドから輸入されており、そのすべてが、塩田で作られた天日塩です。

1965年以降に、気象条件など、塩田の構築に適したメキシコ、オーストラリアに大規模塩田が整備され、日本国内でもこれに合わせて、受け入れ港湾を整備したことなどから、この2カ国からの輸入が大半を占めています。

2008年度は、カセイソーダの生産が減少したことで、

原料塩の需要量及び輸入量は、共に10%程減少しました。また、輸入先は、メキシコ、オーストラリアで約9割を占める状況に変わりはありませんが、輸入比率はメキシコが若干減少して、オーストラリアが若干増加しました。さらに、インドが初めて10%台となりました。

なお、中国からは、昨年に続いて輸入がありませんでした。中国の電解ソーダ工業の拡大により、国内需要が増加したため、中国も塩の輸入国に転じています。